

③ ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺 摘除術後リークに対する漢方薬の 効果の検討

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学

子安 洋輝、小笠 大起、小林 拓郎、三好 悠斗
黒澤 誠、芦澤 健、家田 健史、知名 俊幸
北村 香介、永田 政義、磯谷 周治、和久本 芳彰
武藤 智、堀江 重郎

【緒言】

現在我が国において前立腺癌は癌罹患率第1位となり男性において最も遭遇する頻度の高い癌と言われている。前立腺癌の治療方法には手術、放射線、内分泌療法などが挙げられるが手術においてはロボットを用いたロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術(RARP)が主流となってきている。RARPでは開腹手術と比較して患者の身体的負担が少なく、術中および術後の出血が少なく済むというメリットがある。また身体的な侵襲が軽度であるため術後の回復が早いことも特徴として挙げられる。RARPでは開腹手術と同様に前立腺を摘出後に膀胱頸部と尿道断端の吻合を行うが代表的な合併症として吻合部から尿がもれる膀胱尿道吻合部リークが挙げられる。今回我々はRARP術後にリークを起こした症例に対して漢方薬の投与を行った。

【対象】

前立腺癌の診断によりロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術を施行し術後リークを生じた3名を対象とした。

【方法】

当院ではRARPを施行した方に対して術後8日目に膀胱造影を行い造影検査時にリークがないことを確認し造影検査終了時に尿道カテーテルを抜去している。今回我々は膀胱造影時にリークを認めた3名に対して桂枝加芍薬湯+防己黄耆湯の内服を開始し数日~1週間程度時間をおいて再度膀胱造影を行いリークの状態を確認した。

【結果】

3人とも術後認めていたリークは消失・改善し尿道カテーテル抜去に至った。

【考察】

吻合部リークはRARPの代表的な合併症の一つである。今回我々は桂枝加芍薬湯+防己黄耆湯の内服により術後リークが消失・改善するという経験をした。今回の結果から黄耆を含む漢方の内服により末梢血流の改善などにより組織が脆弱な部位の再生を促す可能性が考えられる。今回の症例に対して若干の文献的な考察を加え報告する。